

1. 環境に関する市民等意識調査（アンケート調査）の概要

(1) 調査の目的

「伊賀市環境基本計画」の策定にあたって、広く市民の環境に対する意向や意見、環境保全への取り組みなどについて聞き、計画に反映させるため、市民等意識調査を実施しました。

(2) 調査の対象

調査の対象は、以下に示した一般市民、事業所としました。

- ・一般市民 1,800名（無作為抽出）
- ・事業所 200社（無作為抽出）

(3) 調査の方法

- ・一般市民 郵送による配布及び郵送による返送
- ・事業所 郵送による配布及び郵送による返送

(4) 調査項目

- ・環境に対する関心度
- ・環境の情報について
- ・環境の現状に対する評価
- ・望ましい環境像
- ・環境保全に対する取り組み

(5) 調査の時期

調査は、令和2年11月上旬に配布し、令和2年12月下旬に回収しました。

(6) アンケート調査の回収率

アンケートの発送数及び回収数は表1-1に示したとおりです。

回収率は一般が45.1%、事業所が55.0%であり、合計では46.2%となっています。

（参考：前回のアンケート調査（平成17年11月実施）（以下「前回アンケート調査」という）の回収率、一般44.2%、事業所45.5%、合計44.3%）

表1-1 アンケート調査回収率

	一般市民	事業所	合計
配布数	1,800	200	2,000
回収数	813	110	923
回収率	45.1%	55.0%	46.2%

2. アンケート調査結果の概要

(1) 一般

・環境に対する関心度

「関心がある」と「ときどき考えてみる」を合わせると全体の約90%と環境への関心の高いことが示されました。また、家庭や職場で環境問題について話し合いをすることが、「よくある」と「ときどきある」の回答を合わせると約60%あり、家庭や職場で環境問題が話題に挙がっていることを示しています。しかし、前回アンケート調査では、家庭や職場で環境問題について話し合いをすることが、「よくある」と「ときどきある」の回答を合わせると約80%もあり、今回のアンケート調査では、環境問題について家庭や職場で話題になることが若干、少なくなっていることが結果として現れました。

伊賀市では伊賀市環境基本条例に基づき「伊賀市環境基本計画」（2007～2015年度）が策定され取り組みが図られてきましたが、この計画を「知らない」という回答が市民では56%あり、「内容もよく知っている」、「知っているが内容までよくわからない」、「聞いたことはある」を合わせても44%でありました。このことは、市民への周知や浸透が不足していたことが伺えます。

また、関心の高い環境問題については「不法投棄など廃棄物の不適正な処理」、「ごみの減量化、リサイクルなどの問題」、「地球温暖化、酸性雨、砂漠化やオゾンホールなどの地球環境問題」についての回答が多く、特に最近のニュースや報道で話題となっている環境問題が挙がっています。

続いて「家庭からの生活排水や工場排水などの水質汚濁」などの身近な問題や「森や林、河川などの自然環境の破壊」、「里山・田畑などの身近な自然環境の消失」など、身近な問題についても関心が高くなっています。なお、前回アンケート調査で回答の多かった「有害化学物質や農薬、ダイオキシン類、アスベストなどの問題」は9%から4%へと関心度が減少していました。

・環境の情報について

環境に関する情報の入手は、「テレビ・ラジオ」及び「新聞」が圧倒的に多く、それに次いで「行政による広報・回覧版」、「インターネット」の順となっています。今回のアンケート調査では、インターネットの割合は13%でしたが、前回アンケート調査では3%であり、インターネット等の媒体による情報入手が少しずつ増えてきていることが伺えます。

環境に関する情報入手については、「十分得ている」、「ある程度得ている」の合計が約39%、「あまり得ていない」、「ほとんど得ていない」が約48%であり、前回アンケート調査では、「十分得ている」、「ある程度得ている」を合計すると約59%あり、環境に関する情報入手について不足を感じていることが伺えます。

また、不足している環境情報や知りたい情報は、「生活に及ぼす影響」、「環境保全のための対策」「環境問題の現状」、「環境問題の原因」の順になっています。

・環境の現状に対する評価

身近な環境の現状評価は、「公園や広場などまちの緑の豊かさ」、「空気やにおいのさわやかさ」、「音の静かさ」、「自然の緑の豊かさ」については「非常に満足」、「満足している」が比較的多く、その反面「まちの清潔さ」、「川やため池の水のきれいさ」、「街並みの景色の美しさ」については比較的「不満」、「非常に不満」が多くなっています。環境の変化については、10年くらい前と比較して「とくに変化なし」の回答が多数を占めました。

また、環境面で困っている、または気になることとして、「地球温暖化（夏の暑さ、冬の暖かさ、異常気象）」、「道路わきのごみや空き缶」、「里山の荒廃、林地開発等による獣害」などの回答が多くありました。

今回のアンケート調査では、地球温暖化についてどのように感じているかという項目を新設しました。その結果「気温上昇、猛暑日の増加」、「台風の大規模化、ゲリラ豪雨・洪水の発生」と回答された割合は約55%を占め、地球温暖化によると思われる気象現象を身近な問題として捉えています。

・望ましい環境像

望ましい環境像として最も大切なものは「空気のさわやかさ」、「川やため池の水きれいさ」、「自然の森の緑の豊かさ」、「自然の景観の美しさ」、「まちの清潔さ」などの回答が上位を占めていました。傾向として大気環境、水環境、環境美化など日常生活に密着した事項を挙げていました。これは、前回アンケート調査とほぼ同様の結果となっていました。

地域の発展、活性化のために伊賀市として取り組むものとしては、「交通網の整備」、「商業施設の整備」、「教育施設や情報交換の場の整備」、「防災施設の整備」などが回答の上位を占めていました。なお、今回アンケート調査では「商業施設の整備」に関して、前回アンケート調査9%から15%に上昇していました。

また、「環境を守ることと市の発展との関係」については、どちらとも言えないが回答の約46%を占めていました。次に「市の発展は多少犠牲にしてでも環境保全に努めるべき」が約24%を占めていました。

環境を守ることと暮らしの便利さを求めることとのどちらを優先すべきかの質問には、「どちらとも言えない」が約39%、次いで「生活の便利さは多少あきらめても環境保全に努めるべき」が約28%となりました。

その一方で、環境保全のための商品などの価格に費用の一部を市民が負担することには賛否が分かれました。これは、前回アンケート調査でも同様の傾向でありました。

自然との触れ合いの施設の必要性については「森林などの豊かな自然は、そのままの状態で残し、施設などの設置はできるだけ必要なもののみにとどめるべき」との回答が約49%あり、現状維持をすることを多くの方が望まれているという結果になりました。

さらに、伊賀市全体のイメージとしてふさわしいと思うものは、「福祉施設や医療施設、防災施設の充実により安心して暮らせるまち」、「山や川などの自然に恵まれた静かなまち」、次いで、「企業の誘致や産業の振興により働く場所・機会のある活気のあるまち」が上位を占め、伊賀市は“医療や福祉が充実し、自然が豊かで、働く企業も多くあり活気ある街のイメージ”がふさわしいと考えられています。

・環境保全に対する取り組み

伊賀市の環境保全に対する取り組みについては「一般ごみ・し尿処理、産廃などの廃棄物処理」「水質汚濁や地下水汚染など水環境の保全」「里山や水辺などの身近な自然環境の保全」「森や林などの自然環境の保全」が回答の上位を占めていました。この上位の回答項目については、前回の調査と同じ傾向になっています。

地域の環境保全活動については、約65%が「積極的に参加している」、「参加したことがある」とされ、市民は何らかの環境保全活動に参加されたことがあることが伺われます。

また、個人で行っている環境配慮の活動としては「ごみ分別の徹底、ごみの減容化」「エコバックの使用」、「こまめに電気を消す」、「エアコン、暖房機器等の適切な温度設定」が上位を占め、廃棄物の削減や電力消費量の削減について市民生活において、定着が図られていることが伺えました。

今後、市民が行いたい環境保全活動は、「ごみの減量化やリサイクルの推進など暮らしの中での工夫や努力」「市民活動や行事に参加」「市民センターなどで行っている市民向けの環境指導への参加」が上位を占め、行政に対して、環境指導を求める要望があることが分かりました。

(2) 事業所

・環境に関する関心度

環境問題について特に関心が無いと回答された事業所は約 1%しかなく、全般的に事業所としては環境問題に対する関心度は非常に高いことが伺われました。

特に関心が高いものとして、「ごみの減量化、リサイクルなどの問題」、「地球温暖化、酸性雨、砂漠化やオゾンホールなどの地球環境問題」、「工場からの産業廃棄物の排出及びその処理施設の問題」などが上位を占めていました。なお、この上位 3 項目の「ごみの減量化、リサイクルなどの問題」、「地球温暖化、酸性雨、砂漠化やオゾンホールなどの地球環境問題」については、前回アンケート調査でも上位を占めていました。

伊賀市では、伊賀市環境基本条例に基づき「伊賀市環境基本計画」（2007 年度～2015 年度）が策定され取り組みが図られてきましたが、この計画を「知らない」が 42%、「内容もよく知っている」、「知っているが内容までよくわからない」、「聞いたことがある」を合わせても 58%となり、「伊賀市環境基本計画」（2007～2015 年度）について、事業所への周知は、一般市民ほどでもないものの浸透が少し不足していることが伺えました。

・環境の情報について

環境情報の入手源は、「テレビ・ラジオ」、「インターネット」、「新聞」が多くなっています。情報量は「十分得ている」「ある程度得ていること」で合計約 59%を占めており、前回アンケート調査の 75%より減少しています。

環境に関して不足している情報については、様々な回答がありました。「環境問題の現状」、「環境問題の原因」、「生活に及ぼす影響」、「環境保全のための対策」がそれぞれ約 19～24%を占めており、これらの項目について情報不足を感じていることが伺われました。なお、前回アンケート調査でも同様の傾向がありました。

・望ましい環境像

伊賀市が地域の発展、活性化のために優先的に取り組むべき施策として「道路等の交通網の整備」、「商業の設備」、「観光・レクリエーション地の整備」、「企業等の誘致」が上位を占めていました。なお、前回アンケート調査でも「道路等の交通網の整備」については、要望が高い結果を得ています。

また、環境を守ることと市の発展のための開発や施設整備などを行うこととの関係については、「どちらともいえない」が約 63%を占めていました。次に「市の発展を多少犠牲にしても環境保全に努めるべき」（約 20%）が続く結果となりました。

環境を守ることと暮らしの便利さとどちらを選択するかは「どちらともいえない」が約 52%を占め、次いで「生活の便利さを多少あきらめても環境保全に努めるべき」の結果となりました。

環境を守るために費用の一部を負担することについては、「どちらともいえない」が約 41%、次いで「環境保全のために必要な費用を商品価格やサービスに上乗せすることはやむを得ない」（約 36%）という結果になりました。なお、サービス業については、「環境保全のために必要な費用を商品価格やサービスに上乗せすべきではない」ことの見解割合が高い傾向にありました。

自然との触れ合いのための施設整備の必要性は、「森林などの豊かな自然はそのままの状態を残し、施設などの設置はできるだけ必要なものにとどめる」という回答が一番多く全体の約 45% となっていました。

伊賀市のイメージについても最も回答が多かったのは「企業の誘致や産業の振興により働く場所・機会のある活気のあるまち」（約 23%）であり、その他では「観光施設やレクリエーション施設の充実により観光客などの多くの人を訪れるまち」（約 20%）、「福祉施設や医療施設、防災施設の充実により安心して暮らせるまち」（約 19%）、「山や川などの自然に恵まれた静かなまち」（約 19%）という回答状況であり、意見が分かれていることが伺えました。

・環境保全に対する取り組み

伊賀市としての環境への取り組みについては、今回アンケート調査では、前回アンケート調査で一番多かった「ごみ処理やし尿処理、産廃などの廃棄物処理」より、「里山や水辺などの身近な自然環境の保全」、「森や林などの自然環境の保全」の項目についての回答が多くありました。

事業所における環境保全の取り組みは、「冷暖房等の電気や水の使用の節約」、「産業廃棄物の発生抑制」などについての取り組みが図られていることが伺えました。

今後の環境保全活動については、「積極的に推進したい」と「ある程度推進したい」を合わせると約 70%と、環境保全活動を推進したいと考えている事業所が多いことが伺われます。なお、その理由としては、「環境に対する関心の高まり」、「企業のイメージアップ」、「経費の節約のため」などの理由が多くを占めました。しかし、活動の障害となる要素には、「経費がかかること」や「人手不足」という問題を抱えているという事業所が多いこともアンケート結果から伺えました。

今後行いたい（参加したい）環境保全活動については、「市民活動や行事への参加」、「地域住民への環境保全に対する啓蒙活動」、「環境保全に関する技術提供」などが多くなっています。

環境保全のために取り組むべき機関については、国・県・市・町などの行政に期待するところが大きいと考えていることが伺えます。また、「市民一人一人」という回答も多数あり、これは市民についても行政と連携し協力して取組んでいく必要があることを示唆しています。